名大醫學部學友時報 2026 10

目　次

1．教授就任　武市　拓也 ……(2)
2．新院長に聞く　加田　賢治 ……(4)
3．退職教授からの書簡　木山　博資 ……(5)
4．随筆　近藤　豊 ……(6)
5．船、飛行機など乗り継ぎ世界一周　前編　西脇　公俊 ……(8)
6．叙勲受章申告のお願い ……(9)
7．西医体結果報告 ……(10)
8．西医体上位入賞者報告 ……(11)
9．海外留学体験記 ……(13)
10．令和8年度（2026年度）名古屋大学医学部学友会支部総会のお知らせ ……(15)
11．ご寄稿のお願い ……(16)
12．編集後記

教　授　就　任



名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻
運動・形態外科学講座皮膚科学分野

教授　武市（たけいち）　拓也（たくや）

教　授　就　任

運動・形態外科学講座　皮膚科学分野　教授

武市（たけいち）　拓也（たくや）

〈経　歴〉

2004年3月　滋賀医科大学医学部　卒業
2004年5月　愛知県厚生連昭和病院（現：江南厚生病院）　研修医
2006年4月　名古屋大学医学部附属病院　皮膚科医員
2007年9月　豊橋市民病院　皮膚科専攻医
2010年9月　名古屋大学大学院医学系研究科　博士課程修了
　博士（医学）取得
2011年4月　稲沢市民病院　皮膚科医師
2013年3月　St John's Institute of Dermatology, King's College London, Visiting Research Fellow
2015年4月　名古屋大学医学部附属病院　皮膚科医員
2016年4月　名古屋大学医学部附属病院　皮膚科助教
2019年10月　名古屋大学大学院医学系研究科　皮膚科学講師
2022年4月　名古屋大学高等研究院兼務
2023年4月　名古屋大学大学院医学系研究科　皮膚科学准教授
2026年7月　名古屋大学大学院医学系研究科　皮膚科学教授

〈業　績〉

1. Takeichi T, Ohno Y, Tanahashi K, Ito Y, Shiraishi K, et al. Ceramide analysis in combination with genetic testing may provide a precise diagnosis for self-healing collodion babies. J Lipid Res. 2022; 63: 100308.
2. Takeichi T, Hirabayashi T, Miyasaka Y, Kawamoto A, Okuno Y, et al. SDR9C7 catalyzes critical dehydrogenation of acylceramides for skin barrier formation. J Clin Invest. 2020; 130: 890-903.
3. Takeichi T, Torrelo A, Lee JYW, Ohno Y, Lozano ML, et al. Biallelic mutations in *KDSR* disrupt ceramide synthesis and result in a spectrum of keratinization disorders associated with thrombocytopenia. J Invest Dermatol. 2017; 137: 2344-2353.
4. Takeichi T, Sugiura K, Nomura T, Sakamoto T, Ogawa Y, et al. Pityriasis rubra pilaris type V as an autoinflammatory disease by *CARD14* mutations. JAMA Dermatol. 2017; 153: 66-70.
5. Takeichi T, Liu L, Fong K, Ozoemena L, McMillan JR, et al. Whole-exome sequencing improves mutation detection in a diagnostic epidermolysis bullosa laboratory. Br J Dermatol. 2015; 172: 94-100.

学友会の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。この度、2026年7月1日をもちまして、名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻運動・形態外科学講座皮膚科学分野教授を拝命いたしました武市拓也と申します。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

私は2004年に滋賀医科大学を卒業し、愛知県厚生連昭和病院（現：江南厚生病院）で初期臨床研修を受けました。2006年に名古屋大学皮膚科学教室に入局し、2007年に名古屋大学大学院に進学いたしました。大学院では、富田靖先生（現：名誉教授）、杉浦一充先生（現：藤田医科大学皮膚科教授）をはじめとする諸先生方より、研究の基礎をご指導いただきました。2010年からは秋山真志先生（現：名誉教授）のご指導のもと、表皮細胞から角層へと研究対象を広げ、先天性魚鱗癬をはじめとする角化症の研究に取り組んでまいりました。大学院修了後は市中病院で研鑽を積み、2013年から英国St John's Institute of Dermatology, King's College LondonのMcGrath教授のもとへ留学し、遺伝性皮膚疾患の遺伝学的解析研究に従事いたしました。帰国後は、自己炎症性角化症という新たな疾患概念の確立にも携わり、皮膚バリア機能と表皮角化機構に関連する病態解明を続けております。

附属病院では、主に角化症と遺伝性皮膚疾患の診療に従事してまいりました。臨床遺伝専門医として、先天性魚鱗癬、膿疱性乾癬、表皮水疱症、色素異常症などの患者さんとご家族に向き合い、遺伝カウンセリング部門の先生方にもご指導いただきながら診療を行っております。

名古屋大学皮膚科学教室には、遺伝性疾患のみならず、膠原病、皮膚腫瘍をはじめ、多様な領域において培われてきた高い専門性と伝統があります。これまで教室を築き、支えてこられた先輩方、学内外の先生方、関連病院の先生方への感謝を忘れることなく、各領域の強みをさらに発展させ、診療・研究・教育のいずれにおいても貢献できる教室を目指してまいります。

研究面では、貴重な臨床検体、遺伝学的情報、疾患モ

デル、オミクス解析などを有機的に結びつけ、基礎研究と臨床を往還するトランスレーショナルリサーチを一層推進してまいります。稀少疾患の研究は、限られた患者さんのためだけでなく、皮膚バリア、炎症、免疫、腫瘍といった皮膚科学全体の理解にもつながるものと考えております。研究成果を国際的に発信することはもちろん、診断精度の向上や治療選択肢の拡充を通じて、患者さんに還元できる成果を生み出すことを目標としてまいります。

また、若い先生方の志を支え、その挑戦を後押しし、臨床の疑問を研究へと発展させる力を育むことも、教室の将来にとって極めて重要です。学生、研修医、専攻医、大学院生が、皮膚科診療の奥深さと研究の魅力を実感し、国内外で研鑽を積むことのできる環境を整えてまいります。若手医師が互いに切磋琢磨しながら成長し、患者さんに還元できる成果を生み出す教室づくりに尽力いたします。

まだまだ微力ではございますが、名古屋大学皮膚科学教室のさらなる発展に向け、誠心誠意努めてまいる所存です。学友会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

武市教授就任インタビュー

—— 現在の心境と抱負

多くの先生方から励ましやお祝いの言葉をいただき、大変ありがたく感じる一方で、大きな責任を担う立場になったことを改めて実感し、身の引き締まる思いでおります。先輩方からは、「焦らず着実に進みなさい」という言葉もあれば、「教授としての時間は長いようで短い。最初の志を大切に、自分の目指す方向へ早くから歩み始めることが大切だ」という助言もいただきました。こうした言葉を胸に、真摯に仕事に取り組んでいきたいです。教室の先生方それぞれの強みを生かし、互いに成長できる環境を整えながら、診療・研究・教育を通じて患者さんへの還元と次世代の育成に努めていきたいと考えています。

—— 研究に進まれたきっかけ

私が皮膚科学を志したきっかけの一つは、皮膚科が「目で見える医療」であることに魅力を感じたことです。治療による皮疹の変化を患者さんと医師がともに確認できる一方、皮膚組織を顕微鏡で解析することで、肉眼で捉えられる現象の背景にある病態まで追究することができます。治療の成果を患者さんとともに喜べること、そして目に見える現象の奥にある本質を探究できることに、皮膚科学の大きな魅力を感じました。実際に皮膚科医として診療を始めると、原因や病態が十分に解明されていない疾患が数多く残されていることにも気づきました。日々の診療で生じた疑問を、自らの研究によって解き明かしたいという思いが次第に強くなり、研究の道へ進みました。

—— ご自身の研究分野の魅力について

大学院では比較的患者数の多い尋常性乾癬を研究対象としていましたが、その後、魚鱗癬をはじめとする稀少な遺伝性皮膚疾患の研究に取り組むようになりました。重症の患者さんではQOLが大きく損なわれ、生涯にわたり疾患と向き合わなければならない症例もあります。「少しでも患者さんの症状を軽減したい」という思いが、研究を続ける大きな支えとなっています。

また、稀少疾患の病態を解明することは、表皮細胞が分化（角化）し、最終的に脱落するまでの皮膚の基本的な仕組みを理解することにもつながります。そこで得られた知見が、アトピー性皮膚炎など、より多くの患者さんが罹患する疾患の理解や新たな治療法につながる可能性があります。思いどおりの結果が得られないことも多いのですが、予想外の結果から新しい発見が生まれることがあります。未知の病態を一つずつ解き明かしていくことも、研究の大きな醍醐味だと感じています。

—— 学生へのメッセージ

皮膚科は、先天性疾患から高齢者の疾患まで、炎症性疾患、自己免疫疾患、膠原病、感染症、皮膚腫瘍など、非常に多彩な疾患を扱います。内科的治療だけでなく手術も行うため、内科的な知識と外科的な技術の双方を生かすことのできる奥深い分野です。「研究に取り組みたい」「手術をしたい」「内科的な診療も行いたい」など、それぞれの興味に応じた道を選ぶことができ、地域医療、大学での研究、専門性を生かした勤務医など、多様なキャリアを描くこともできます。また、皮膚科では皮疹を自分の目で観察し、病理組織を考え、必要に応じて全身の病態まで掘り下げて診断します。さまざまな医学領域に触れながら、自分自身の興味や得意分野を深められることも皮膚科ならではの魅力です。一人でも多くの学生の皆さんに、皮膚科学の奥深さと面白さを知っていただければと思います。

新院長に聞く

中京病院

院長 加田（かだ） 賢治（けんじ）



―― 病院長に就任された今のお気持ち

私は1988年に名古屋大学を卒業し、中京病院にて臨床研修を受けました。循環器内科に4年間勤務後、市中病院の循環器内科勤務や名古屋大学での研究を経て、2002年に当院に再度赴任しました。循環器内科部長・副院長を経て今春、院長を拝命しました。現在は人口減少・高齢化・働き手世代の減少などに伴い、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。病院の機能分担・統廃合が求められ、舵取り次第では病院の存続が危ぶまれることにもなりかねません。責務の重大さに身の引き締まる思いです。

―― 病院の特徴

名古屋市南部および知多半島を医療圏とする30診療科580床の総合病院です。2014年4月に『独立行政法人地域医療機能推進機構』という組織に改変しましたが、もともとは社会保険病院として1947年に設立された病院です。救命救急センターを有しており、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、重症外傷センター等の指定を受け、高度急性期・急性期を中心とした医療を提供しています。

当院の最大の特徴は実績が日本一である重症熱傷診療です。愛知県内はもとより近隣県よりドクターヘリにて受傷者が搬入されます。その他、腎臓移植・重症熱傷・小児心臓手術・硝子体手術など全国レベルの先進的診療実績を有すること、全身麻酔年間3000件の豊富な手術件数を有すること、極めて高い応需率の救命救急医療を提供していることがあげられます。また、本年1月に新東館が完成し、救急外来・救命救急病棟・集中治療室・手術室など急性期機能がさらに充実しました。

―― 今後の展望や抱負

院長として目指したいことは、「中京病院があるこの地域の医療は素晴らしい」と地域住民・医療機関の方々より評価をいただくことです。以下の3点に取り組みたいと考えています。

①働きやすい職場環境の整備

病院職員が笑顔で働くことができなければ、患者さんの心に寄り添うことはできません。設備はもちろんのこと、運用方法を最適化する必要があります。また、病院には様々なチームがありますが、職種の壁がなく、互いに尊重し、意見が言える「全員主役のチーム医療」を目指したいと考えます。

②特色のある医療の提供

当院は重症熱傷・腎移植・小児心臓手術などこれまでも特色のある医療の提供を行ってきましたが、今後もこれらの特色を発展させるとともに、新たな特色を創出していきたいと考えています。例えば、脳神経外科の「モヤモヤ病」や「成人に達した先天性心疾患患者」に対する診療体制の充実です。

③地域に最適な医療提供体制の実現

少子高齢化の本格化により名古屋市においても人口減少が始まり、急性期医療需要が減少し、医療従事者の確保が難しくなっています。地域の医療機関や住民の方々と活発な議論・討議を通して、「この地域に最適な医療提供体制の実現」を目指したいと考えます。

―― 卒業研修への取り組み

当院では教育研修センターが中心となり「意欲ある若手が安心して挑戦し、成長できる環境づくり」に力を入れています。初期研修の2年間はとにかく数多くの患者さんを診て、自ら考え・調べて・先輩に聞いて学ぶことが重要です。内科系診療科では主治医として患者さんを受け持ち、主体的に治療方針の決定に関わります。豊富な救急搬送患者や手術症例を経験できます。また、救急外来症例の検討会・Journal Club・救急外来での対応を中心とした診療科のレクチャーを定期的に開催しています。初期研修終了後、大半の先生方が当院に残って専門研修に移ります。

―― 学生へのメッセージ

臨床医として大切なことは、相手を思いやる心だと思います。学生の間に多くの友人や人（特に医療と関係がない方）と話しをし、様々な考え方があることを学んでください。相手の立場となって考え尊重する姿勢は、医師となり患者さんを診る時に役に立ちます。研修医・若手医師の時期は、どのような環境で医師としての第一歩を踏み出すかが非常に重要です。志を同じくする仲間として、皆さんが当院の門を叩いてくれることを楽しみにしています。



令和８年度（2026年度）名古屋大学医学部学友会　支部総会のお知らせ

支部のページ

https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical_J/alumni/gakuyuukai/organization/

静岡県支部総会

日時：令和８年11月７日（土）
　　総　会　15：30～
　　講　演　16：00～
　　懇親会　17：30～
場所：ホテルコンコルド浜松
講演：名古屋大学大学院医学系研究科　心臓外科学　教授　六鹿　雅登　先生（平成８年卒）
　　名古屋大学大学院医学系研究科　整形外科学　教授　今釜　史郎　先生（平成９年卒）

会員の先生方には、８月上旬にご案内をお送りしました。
出席をご希望で回答が未だの先生がいらっしゃいましたら、下記事務局へご連絡ください。

問い合わせ先：名古屋大学医学部学友会　静岡県支部事務局
TEL：054-285-6171　　Email：gakuyuukai-shizu@siz.saiseikai.or.jp

知多支部総会

日時：令和８年11月７日（土）16：30～
場所：ビストロ ラ・フェット
　　半田市北二ツ坂町1-3-1
　　TEL：0569-26-7737
講演：名古屋大学大学院医学系研究科　形成外科学　教授　橋川　和信　先生

問い合わせ先：名古屋大学医学部学友会知多支部事務局（半田市医師会館内）
TEL：0569-21-3411　Fax: 0569-24-3251　　Email：handa-i@muse.ocn.ne.jp

中国四国支部総会

日時：令和９年１月30日（土）
場所：オールドイングランド 道後山の手ホテル
　　〒790-0836　愛媛県松山市道後鷺谷町1-13
　　TEL : 089-998-2111
16：00　開場
16：20　総会開始
　　支部長挨拶（教授御紹介）
　　議題（あれば協議）
　　会計報告　小川　恵子（H9年卒）
　　御講演：　勝野　雅央　教授
　　（名古屋大学医学系研究科長・医学部長／名古屋大学大学院医学系研究科脳神経病態制御学講座 神経内科学 教授）
　　和氣　弘明　教授
　　（名古屋大学大学院医学研究科機能形態学講座　分子細胞学　教授）
17：45　記念撮影
18：00　懇親会
20：00　解散

問い合わせ先：名古屋大学医学部学友会　中国四国支部事務局（広島大学病院漢方診療センター内）
TEL：082-257-1921

ご寄稿のお願い

名大医学部学友時報では、皆様からのご寄稿を随時募集しております。身辺雑記・所感・随想・詩歌・趣味など、テーマは何でも結構です。会員の皆様の交流の広場として、是非原稿をお寄せ下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。お寄せいただきます際には、下記の要領にてお願いします。

①タイトルをつけて下さい。

②写真なしの場合：半頁900字程度、1頁2000字程度。写真ありの場合：写真1枚につき250字程度、字数を減らして下さい。

写真の下に添える短い説明文もつけていただけると幸いです。現物を頂いた場合、写真は後日返却いたします。

紙面の都合上掲載が遅くなってしまうことがあるかもしれませんが、ご了承願います。ご意見、ご感想もお待ちしております。

〒466-8550　名古屋市昭和区鶴舞町65　名古屋大学医学部　学友会時報部

TEL：052-744-2512　FAX：052-741-7676　E-mail：numed.jiho@gmail.com

編集後記

朝夕の空気がすっかり冷たくなり、木々の色づきにも秋の深まりを感じる季節となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

夏休みが明けてから一か月ほどが経ち、大学での生活もすっかり日常に戻りました。4年生はOSCE・CBTが目前に迫り、講義や実習と並行しながら勉強に励む日々を送っています。少し前まではまだ先のことのように感じていた試験も、気づけばすぐそこまで近づいており、時間の流れの早さを実感しています。覚えたつもりになっていた知識が抜けていたり、実技では思うようにいかなかったりと、自分の未熟さを感じることも多いですが、一つずつ確認しながら本番に向けて準備を進めているところです。部活と勉強との両立に忙しさを感じる日もありますが、周囲の仲間と過ごす時間や、学生生活ならではの経験も大切にしながら、日々を過ごしていきたいと思います。

過ごしやすい季節となった一方で、朝晩は冷え込む日も増えてきました。体調管理にも気を配りながら、一日一日を大切にし、実りある秋にしていきたいと思います。皆さまもどうぞご自愛ください。

（天野　祥汰）

部　長	梶山　広明	6年	小野　瑞稀	阪口　竜佑	松井のぞみ	森本　崇嗣
委　員	芳川　修久	5年	安藤　優里	坂本　鈴奈	チーフ 相地　竜壱	味村　柊哉
	玉内　学志	4年	天野　祥汰	佐野　文哉	橋元万由子	村松舞奈美
学友会事務局	中島　千夏	3年	櫻井あんり	高木　彰吾	原田理紗子	平田　紗菜

【時報部のe-mailアドレスのお知らせ】

本時報に対するご意見、ご感想、情報等は、numed.jiho@gmail.comへお寄せください。

発　行　所　〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65 名大医学部学友会
編集発行人　時報部長　梶山　広明
印　刷　所　名古屋市中区千代田5-11-16 株式会社山誠社

購読料　（年7,000円　会費に含む）　毎月22日発行
学友会　振替口座（00880－7－3838）
電　話　（052）744－2512（直通）
ＦＡＸ　（052）741－7676
メール　gakuyuukai@med.nagoya-u.ac.jp